

道しるべ

社会福祉法人 京都府母子寡婦福祉連合会

発行責任者 東 美佐子

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通 烏丸東入る清水町 375番地

京都府立総合社会福祉会館内

TEL 075-223-1360 FAX 075-950-1503

http://kyotofu-boshiren.sakura.ne.jp



新年のごあいさつ 「未来に向かって」

社会福祉法人 京都府母子寡婦福祉連合会 会長 東 美佐子

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えることと心よりお慶び申し上げます。

昨年の京都府大会において、母子部を中心としたバザーの開催は大盛況で、大変喜んでおります。母子と寡婦が力を合わせ一つの事業をやり遂げたという達成感が満ち溢れていました。今後も続けて頂きたいと思っております。

京都府の委託事業の子どもの居場所づくり事業も今年度は多くの支会が取り組まれ、成果をあげております。私の所属する宮津支会では、料理指導を主な目的とし3年目になります。今まで、包丁すら持てなかった子どもたちに、持ち方・切り方を指導し、自分たちで昼食を作る喜びを知ってもらい、大勢での食事の楽しさ等、今後家庭で役立てて欲しいと思っております。また、ここ2年にわたり、アジを三枚におろす講習を高学年は取組み、低学年は衣をつけ、大人が揚げています。こうした経験が、こども達の将来に大きな光を当てる一コマになって欲しいと願っています。この事業に係ってくださった関係者の皆様には心より感謝致します。

母子交流会では、大学へ進学する為の費用で悩んでおられる方の意見が多く、京都府大会をはじめ全国大会、近畿大会でも、給付型の奨学金の要望をしております。

そうした中、文部科学省等で大学進学者への給付型奨学金の創設等について検討が進められ、私たちの要望が叶いつつあります。

働きながら、子育てや家事等一人で担うひとり親にとっては、身体的、精神的な負担が大きく、又、寡婦にとっては老後の心配も考えなければなりません。母子と寡婦がお互いに助け合い相談して、励まし合いながら母子会を軸に前進して頂きたいと思っております。

私は36歳で夫が亡くなり母子家庭になりました。生活や収入が肩ののしかり、とても不安な日々を過ごしておりました。そんな時役員の方が京都府大会に誘って下さり、出席しました。会場には、たくさんの会員の皆様が居られることにびっくりし、「自分は一人じゃない、こんなに大勢の仲間がいるんだ。頑張らなくて」と。又、役員の皆様が優しい笑顔で接して下さり、安堵の気持ちと勇気が湧いてきたことを覚えております。この会は私にとっての心の居場所であると思っております。

最後になりましたが、母子寡婦福祉の推進に対する深いご理解と温かいご支援を頂いております関係各位の皆様には厚くお礼申し上げます。

会員の皆様にとりまして平成29年が素晴らしい年になりますようお祈りいたします。

お知らせ ひとり親家庭を励ます知事と新入学児童等のつどい

今年も京都府・府母子寡婦福祉連合会・府民生児童委員協議会の共催で、次のとおり開催されます。

知事さんと一緒にゲームを楽しめます。兄弟姉妹も一緒に参加して頂けます。

日時 平成29年3月12日(日) 10:30~14:30(予定)

場所 京都テルサ

参加対象 新入学児童とその親

(昨年参加できなかった在学一年生も対象です。)

内容 お祝いの会

(知事と一緒に親子でゲーム、記念品のプレゼント)

あそびのひろば(こども)、講演会(親)

申込方法 府母子寡婦福祉連合会の支会長あて申し込んでください。

申込期限 2月20日(月)





新年のごあいさつ 共生社会の実現に向けて

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、あけましておめでとうございます。
昨年を振り返って

昨年は、地方創生の動きが本格化する中、オール京都の取り組みで文化庁の京都への全面的移転が決定するとともに、京都丹波高原国定公園の誕生と「京都モデルフォレスト運動」の10周年を祝い、森の京都博の中核イベントとして第40回全国育樹祭を実施するなど、京都の地域力を生かした取り組みを積極的に展開することができました。また、京都を縦貫する自動車道が京丹後市まで開通し、観光客も過去最高の賑わいを記録する中、舞鶴港にも多くのクルーズ船が来港するなど、観光の面でも充実した一年になりました。改めて関係の皆さまにお礼を申し上げます。

しかし一方では、熊本地震や鳥取県中部地震など災害が相次ぐとともに、平成27年の国勢調査の結果からも、少子高齢化や東京一極集中の進行が改めて確認されました。また、北陸新幹線のルート選定過程でもクローズアップされた地域間格差の問題や、増加する非正規雇用の問題、子どもの貧困問題など、社会構造の変化から生じる問題も深刻化しつつあります。

さらに、国際情勢を見ても、保護主義的な思想の台頭が顕著になるなど、様々な観点から二極化が進んでおり、その中で争いの種が芽を出し始めていることに危惧を覚えています。また、昨年、神奈川県相模原市の障害者施設で起きた痛ましい事件は衝撃的でしたが、他者に対する尊重の念を忘れた事件も増加してきているような気がするの私だけでしょうか。

共生こそ京都の文化

今年京都は、地域創生戦略に基づき、「文化創生」により京都の価値を発信していこうとしています。私は、この京都の「文化」の中にこそ、こうした時代に立ち向かう大きな答えがあると信じています。

京都は長い歴史に彩られた地域です。丹後王国として栄えた北部、平城京から恭仁京や長岡京など、遷都を繰り返しながら平安京に至った南部、豊かな森の恵みで都を支えた中部。それぞれの地域が個性を生かし、互いを支え合って京都をつくっています。近年、環境問題や少子高齢化など持続可能性が問題になりますが、まさに京都の文化は持続可能な文化と言えます。

もともと平安京という都自体、唐の都長安を模したものでありますが、外国から輸入した文化を日本独特の文化へと育むことにより、千年の都として「歴史との共生」を果たしてまいりました。さらに、千年の間、都であり続けたという持続可能性を支えたのが、京都議定書の精神に代表される「環境との共生」です。

また、仏教各宗派の本山が多く存在するとともに、日本で最初のキリスト教主義の大学が京都で開学されるなど、多様

な思想が共生する京都には、伝統産業から先端産業まで幅広い産業が共生し、さらには、47の大学が個性を持ちながら共生しています。

そして、門掃きや打ち水などに見られるように、人々が隣人に対する思いやりを持って接する京都の文化は、まさに、「共生の文化」というべきものだと思います。

海と人、森と人、お茶と人と、京都府は新しい共生の道を探ってきました。また、学研都市では、文化と学術の共生が花開こうとしています。この共生という文化こそ、京都が今世界に問わなければならない文化ではないでしょうか。

若者も高齢者も、女性も男性も、障害者も健常者も、ともに支え合って、お互いの個性を尊重することができてこそ、はじめて持続可能な社会が成立し、将来に向けて共に発展する可能性が生まれるのではないのでしょうか。

右か左か、黒か白かといった二者択一の対立と争いの中で、排斥と淘汰が繰り返される世の中だけは後世に残したくありません。様々なものが共生する中で、未来に向けて発展することのできる社会こそが、京都に生きる私たちが次の世代に託すべきものではないのでしょうか。

「もうひとつの京都」

「もうひとつの京都」では、「海」「森」に続き、いよいよ「お茶の京都」の年を迎えます。舞台となる山城地域は、「日本茶のふるさと」として、古くからお茶の文化を支え、育んできた地域です。家族団らんの象徴であり、一期一会の文化の源であるお茶、そしてそれを支える山城の景観。ここにも「共生の文化」が息づいています。「Discover Premium Green」のコンセプトのもと、「お茶の京都博」で世界に京都文化を発信する年にしたいと思います。

そして、「もうひとつの京都」セカンドステージを牽引する各地域のDMOのもと、地域やその地に暮らす人々の結びつきを生かし、共に支え合って生きていく「共生の観光」を育んでいきたいと思っています。

共生社会の実現へ

こうして本年、京都府は、子育てや医療、産業、労働、環境、観光などあらゆる分野で、「共生」をキーワードとして、府民の皆さまの生活に寄り添った施策を進めてまいりたいと考えております。「交流」と「文化」から生み出される「京都力」を存分に発揮し、京都から世界へ、100年後、200年後の未来へとつながっていく新たな「共生社会」の実現に向け、共に歩んでまいりましょう。

この一年の、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

京都府母子部長を拝命して 京丹後市母子寡婦福祉会 平 清美



あけましておめでとうございます。

長年にわたり母子部を、和みを持って引っ張って頂いた眞鍋幸子前母子部長のあとを引き継ぎ、今年度より京都府母子部長をさせて頂いています。

昨年度より京都府福祉大会時において、バザーをしています。今年度は昨年度より多くの支会、そして中部、北部の母子はそれぞれ協力して地域別に出版できていることを嬉しく思っています。来年度以降も母子部中心で支会長に寄り添い協力を得ながら続けることができればと思っております。

私一人の力では何もできませんが、皆様お一人お一人の力をお借りすれば何事もやり遂げられるのではないかと思っております。若輩者ではありますが、今後とも宜しくお願い致します。

母子部地域別交流会

北部

北部交流会の取り組みについて

宮津市母子寡婦福祉会 宮崎 静香

北部は、交流会の取り組みとして各支会の連絡員と年に数回、会議を持ち話し合いの場を設け、各支会の特徴を生かした取り組みを心掛けながら、親と子が楽しめる場を作る為には何をしたら喜ばれるかを考え、毎年試行錯誤しながら交流会を開いています。

平成28年度は宮津支会主催で交流会をさせて頂きました。

今までは親と子と一緒に昼食作りをし、午後からは子供は支援員の方に見て貰い、親は日頃の悩みや相談したい事、意見交換など、交流を深めるといったパターンが続いていましたが、今回は少し趣向を変え、何か違う事が出来ないかと思案し、子供達は陶芸をしてみようという意見が出ました。

6月26日(日)に、陶芸教室の先生に指導をして頂き、会場の提供と、土の準備をお世話になり開催しました。

陶芸をするという機会もなく、何を作っているのかイメージが湧かず、悩んでいる子もいましたが、土を触っていく内に、「動物を作ってみよう、茶碗を作ってみよう」と集中し作る事が出来ました。親は別会場で交流を図る事が出来ました。最初は何を話せばいいのか悩んでいる

方もおられましたが、自己紹介を兼ね話をすることが出来ました。子育てしていく中で一番の悩みは、金銭的な事。高校、大学への進学に対し、どう遣り繰りをしていけばいいのかと不安を抱えるお母さん方が多く、寡婦の方、そして現在、高校生や大学生の子供を持つ方の貴重な体験談を聞く事が出来ました。

色々な意見交換をした後は、府大会のバザーに出店に向け、アクリル毛糸でタワシ作りを寡婦の方に教えて頂き、作りました。

平成29年度は、舞鶴市で交流会をさせて頂きます。体調を崩しやすい時期等、考慮していきながら、大勢の方に参加して頂ける内容を考え、交流会が出来たらと思っています。

今後の課題として、4支会の母子部が一致団結し、交流会が途絶える事のないよう各支会ごとに、会長、役員が話し合いの場を多く持ち、お互いに色々な知恵や意見を出し合い、納得いくまで意見交換を交わし、楽しい交流会が出来るよう心掛けていきたいと思っています。



南部母子部交流会を取り組んで

木津川市母子会 川村 和世

今回初めて支会の母子連絡員を引き受けることになり、最初の役割は南部母子交流会でした。

交流会のテーマは、平成27年1月に開催された母子連絡員会議後集まった時に、スクールソーシャルワーカーの話聞いてみたい、時期は6月の中旬の日曜日という意見があったようで、参考にして講師・日程・会場を決め準備を進めてきました。子どもたちのレクリエーションも、地域の森林ボランティアの方に竹とんぼ作りをお願いしました。各支会の会長さん、連絡員の皆さんの協力を得て、多数の参加者を迎えて開催する事ができました。

ここ数年前から「貧困」の言葉を聞くことが多いと感じていましたが、スクールソーシャルワーカーの方の講義でも「貧困問題が大きな社会問題」になっていることを挙げられており、「私たちひとり親家庭が50%を超える状態である」という事実も数字で出ていて、人ごとではないと感じました。少しずつですが対策の動きも始まっており、地域で子どもの居場所づくりが取り組まれるようになり、親も子も気軽に参加できる学習支援、生活支援が行われています。

子育ては大切なことではありますが、働いていると時間に追われ、余裕がなく、ひとりで悩み、考え込むこともあると思います。交流の場に参加することの大切さを感じました。自分から発言できなくても、他の人の話を聞くことで何か一つでも参考になり気

持ちが少しでも楽になってもらえることができれば嬉しいと思いました。

今回、何もわからないまま準備に取り組むことになり、不安と焦りの気持ちでいっぱいでした。また後日各支会の母子連絡員みんなで集まることも難しく、連絡先を交換してメール等で意見を出し合いました。それぞれ仕事もあり、メールが届いてもすぐに返信できず、次の日になることもありましたが、関わりが広がり、同じ気持ちで目的に向かって取り組むことが出来ました。

開催後たくさんの感想をいただきました。その感想を元に、各連絡員の皆さんとの会議を持った時、来年度に向けて課題を話し合いました。

- ・今回は母子連絡員の大半が交代し、わからないことがいっぱいあり、大変だったので、引き継ぎはしっかりする。
- ・役割分担等は事前に決め、当日スムーズに行えるようにする。
- ・連絡員でもっと意見を出し合い、テーマ、日程を決めて開催地の支会をお願いをする。
- ・各支会で、支会の行事と重ならないよう日程調整をする。等

これらの課題を踏まえ次回は、今回よりも「楽しかったよ」「勉強になったわ」「友達ができたよ」の声がたくさん聴けるように、皆さんの輪が少しでも広がっていくように取り組んでいきたいと思っています。



中部母子部交流会を終えて

京丹波町母子寡婦福祉会 塩貝 雅美

今年度の中部母子交流会は京丹波町支会が開催当番として、丹波町にある和知ふれあいセンターを会場に7月18日に開催しました。例年は開催地の役員のみで行っていましたが、母子連絡員会議にて「府大会のバザーを母子部中心で。母子交流会を活用するのにもひとつの案」との話題がきっかけで、今年度から府大会の出店作りを母子交流会で行う事となりました。4月23日の連絡員会議で打合わせ後、ライン等で打合せを行い5月15日に母子役員で集まり試作品作り、交流会に向け準備を始めました。交流会参加人数は49名と多数の参加があり、午前中は寡婦役員の協力のもと母子役員が中心となり指導にあたり、玉ねぎの皮でハンカチ染めを行いました。各支会役員、寡婦の方々が率先して動いて下さり、「綺麗に染まってる」「こんな風に染まるんや」との声もあがり参加者全員で協力し後片付けまで事故なくスムーズに終了する事ができました。昼食後、午後から母親は別室で懇談会を行い、子ども達はホールでレクリエーションを行いました。

懇談会では日常の様子や困り事、相談事、良かった事を順番に尋ねていきました。お母さん方の話が早く終わり時間を持て余すようになりましたが、急遽母子役員や支会会長さんが話やアドバイスをして下さり持て余す事なく時間内に終わることができました。

子ども達のレクリエーションでは社協から遊び道具をお借りし寡婦の方々や保育ボランティア、社協のご協力のもと高校生から4歳までの子ども達が一つのホールで一緒に輪投げ、ダーツ、塗り絵等色々な遊びを楽しみました。大きな笑い声が懇談会の場にも届き、久しぶりに子ども達と楽しく遊べたと喜んで頂けました。

前年度までは開催地だけに負担がかかり他支会には行って参加するお客様の立場でしたが、今回は各支会母子役員で打合せ等行い役員同士

の交流も深められたように思います。どうしても例年通り各支会ごとにかたまってしまうたり、懇談会ではあまり意見が出なかった事もありますが、子ども達も怪我なくレクリエーションでは楽しく交流が持てたのではないかと思います。皆様のご協力のお蔭で無事終える事ができ感謝しております。反省する所は多々ありましたが、その反省点を元に次年度に繋げていきたいです。

府大会バザーでは、本当に売れるのか不安でしたが、売り場担当以外の役員等のご協力もあり、最後には沢山の方に見て頂け購入して頂けて良かったです。

京丹波町支会の他行事としては、母子会員が少ない為母子部だけの活動が出来ないのが現状ですが、母子寡婦交流会や各地域に分かれてクリスマス会やおもちつき等の行事をし、交流の場を持っています。いつも寡婦の方々には私達が決めた事を嫌な顔ひとつせず協力して下さい、素敵な先輩方が居てとても心強く、感謝するばかりです。会員集めが一番の課題ではありますが、今後も皆で力を合わせ頑張っていきたいです。





自立支援センターだより

ひとり親家庭自立支援センターでは、就職相談・生活相談を行うとともに、各種セミナーや講習会、弁護士相談を実施しています。

今年度は昨年度に引き続き、就職準備セミナー、家計に係る相談会、母子のお母さんのほっこりカフェなどを開催して来ましたが、今年度から新たに取り組んできた事業として、弁護士相談、メールマガジンの発行、ホームページの開設などがあります。

弁護士相談は、離婚や養育費についての相談が多く、非常に役に立ったという声をいただいています。

昨年秋頃から市町村の担当者の方々と情報交換し、連携していくための取り組みを行っていますが、ほっこりカフェを当地でも開催して欲しいなどの要望を伺っており、内容を検討しているところです。

また、昨年11月20日には、「イオンモール久御山」でママ再就職・子育て応援フェアを開催しましたが、本年1月28日（土）、29日（日）の両日にわたって「イオンモール高の原」でママ再就職・子育てフェアを開催し、当センターの事業の宣伝や色々な催し物を開催する予定にしていますので是非見に来てください。

今後のセミナー等開催予定



初歩からのワード&エクセルマスター (定員20名、先着順)

- ◆日時：平成29年1月21日（土）～2月25日の毎土曜日 全6回 10:00～16:00
- ◆場所：京都テルサ東館2階 ミーティングルーム

就職準備セミナー (定員10名、先着順)

- ◆日時：平成29年1月26日（木）、27日（金）、2月2日（木）10:00～12:00
- ◆場所：京都テルサ東館2階 交流コーナー他

養育費・面会交流に係る個別相談会 (定員8名、先着順 一人40分)

- ◆日時：平成29年3月18日（土）10:00～16:00
- ◆場所：京都テルサ東館2階 ワーキングルーム



相談室が新しくなりました！

《お問い合わせ》 南部センター 075-662-3773 / 北部センター 0773-23-2771

ホームページ

URL: <http://hitori-oya.sakura.ne.jp/>
今後実施予定の事業や過去の事業、また相談員の声なども載せていますので訪問してみてください。

メールマガジン

毎月末に発行し、今後の事業予定などをお知らせしています。是非登録をお願いします。



～平成29年度京都府母子寡婦福祉大会及び全体研修会のご案内～
開催は10月15日（日）、会場は京都テルサです

あ と が き

2017年新年号道しるべ編集にあたり、寄稿いただきましたみなさまに感謝申し上げます。

子どもの居場所づくり事業の中で、子どもたちそれぞれが毎回の学習の目標を書いています。自分の立てた目標に向かってがんばる！また、子どもたちに寄り添い応援してくれるスタッフがいてくれ、終わればスタッフがコメント（もちろん褒めてくれます）を書いてくれます。この取り組みの提案も学生スタッフがしてくれました。

この習慣の積み重ねが、子どもたちの自己肯定感を育み積極的になれたらいいなと思っています。

さて新年の今、みなさんは今年の目標は立てられましたか？今年もみなさんとともに目標に向かって充実した一年を過ごせますように。

(梅田・芦田)

京都府社会福祉協議会会長表彰

長年社会福祉に関係し、功績特に顕著である者として、福知山市母子寡婦福祉会 安田支会長、京丹波町母子寡婦福祉会 谷山支会長が社会福祉事業特別功労者表彰されました。

おめでとうございます。

